

設立 平成24年 5月15日
開塾 平成24年 9月 8日
発行 平成31年 4月13日
(77号)

中文字體

[事務局] 〒648-0094
橋本市三石台4-1-15
TEL 0736-38-3669
FAX 0736-38-3680
発行 學塾・中之島事務局



■ 一步前に出した足

金次郎自身が大事にしていたテーマであります。波が暮らしてい

ですが、その仕事とは 農業です。彼の生きた時期は、異常気象や自然災害が重なり、農民を生き抜くのは大変なことでした。彼の仕事は、この被災地となつた村々の復活・復興でした。生涯において、実際に六百以上の町の再建に関わっています。

うして人々の心に光を取り戻すのか。農業とひとづくり、この関係は、一人一人の希望とやる気を奮い起こす中にあります。金次郎は一八二ゼンチ九四キロの大男であつたことも、指導者として迫力あつたことでしよう。人々は金次郎と共に希望と共に町おこしに取り組んだのです。

お馴染みの金次郎の銅像で大切なのは一歩前に出した足であると私は伝えられてきました。

■ 金次郎の行動哲学

その意味は二つあります。人生には本当に辛くてどうしていいかわからないことがあります。絶望するときも小さくてよいから自分のできる一歩を踏み出しが大切だということ。そしてもう一つの意味は、満足してこれ以上ないほどの幸せの中にいてももう少し良くするにはどうするのか、もう一步先に知恵や工夫ができないかと考えることの大切さです。

金次郎の行動哲学を考えるときに、最も大事にしたモデルは「水車」と「川」の関係です。この二つは全く違う個性、方向性を持つものなのに共に活かし合っている。二つが合うことにより生産性を上げています。

■ 金次郎の行動哲学

金次郎の行動哲学を考えるときに、最も大事にしたモデルは「水車」と「川」の関係です。この二つは全く違う個性、方向性を持つものなのに共に活かし合っている。二つが合うことにより生産性を上

人間学講座
第80講
「尊徳に学ぶひとづくりの秘訣」
中桐万里子先生

げており、エネルギーを生み出している。お互いが自然体でありながら、出会いが大きな意味を持つっています。まさにこのような関わり、出会い、お互いがお互いらしく生き生きとしていること、これが理想的な現実の姿だと金次郎は説きました。自分を水車、相手を川に例えるとき、水車が回るためにまずは最初に何をすればよいか?それは「川に飛び込むこと」です。相手の懐に入していくことから全てを始めればよい。

■ 積小為大の二つの意味

人間関係においても金次郎の考え方は活かすことができます。人は相手の行動などに「なんで」と思うとき、相手に向き合えていないと怒りを感じます。さらには活かそうとしていく。そのように怒りの「なんで」を観察の「なんで」に変えてゆく」と

農民は作物の実らないことを環境のせいにして諦めてしまいがちなのですが、金次郎はその状態を「止まっている水車」に例えました。ああだつたら良いのに、と止まっているのではなく、まずは飛び込むこと。例えば寒さで農業を諦めるのではなく、寒い中で豊かに実る栗やひえやそばを作れば良い。現実を呪うのではなく、どうすれば活かせるかを考える大切さ。現実に向き合うことからしか知恵は生まれないことを示しました。

■ 積小為大の二つの意味

人間関係においても金

A woman with short dark hair, wearing a patterned jacket over a white shirt, stands at a podium on a stage. She is gesturing with her right hand towards a large projection screen on the left. The screen displays a slide with Japanese text and a photograph of a traditional building. Above the screen hangs a large red circular decoration. To the right of the woman is a green flag with a white circular emblem featuring a stylized tree or character. The background shows a wooden wall and floor.

で、糸口が見出せるのです。怒りの「なんで」を感じる場合は、たいていは自分自身が○○すべきという答をもつてているときです。

金次郎の生きた自然災害の多い時代、作物を育てるのに昨年と同じやり方では通用しない。常に目の前にことに問いかけ、何を作るべきかを考えました。金次郎はまた、活かしの実践の中で「積小為大」を大切にしました。これは小さいことをこつこつ積み上げることでもあります。もう一つの意味は、大きな希望、大きな豊かさに繋がる宝の種は、小さな場所に眠っている、ということ。だからこそ、小さなものに目を向けていくことを大事にすること。そのうえで大切なことは「慣れ」を廃することです。慣れると小さなものをばかにするようになり、どんどん小さなもののが見えなくなつてくるからです。

教育・ひとづくりに取り組むとき、慣れて見過ぎる
しそうな小さな一点を見逃さないこと。教育は一般的に悪なる部分を摘もうとします。悪の抑制、禁止の原理で語られることが多いのですが、そのように悪に注目するのではなく、小さな善に光を当てること、「悪の抑制」ではなく、「善の育成」を考え、その小さな光を大きな光にしていくことが、きわめて重要ではないかと思います。「何をすればダメなのか」ではなく、「どうすれば良いのか」と転換してゆくことが重要なのです。

金次郎の造語である積小為大の考え方は農業から生まれました。宝物の「宝」の語源は「田から」です。田んぼで生まれるもののが「宝」。人間の命はいつの時代も作物によってつながれます。まさに作物は宝物でしょう。金次郎は、絶対に田は自然に放つたままでできぬ。田畑は必ず毎日働く人間がいて、初めて生まれるものなのだと言います。そして絶対に一人の力ではできません。人と人との助け合ひ、協力、絆が不可欠で生まれるもののです。人と人との関係、人と自然との関係もまた、田んぼから生まれる「宝」と言えましょう。

□ **『△グループ討議』**

講師 中桐万里子先生

【尊徳翁に学ぶ人づくりの秘訣】

- ① 日常生活に慣れるのではなく、小さなことに気づくことが大事。
- ② 当たり前と思っているなかに大切なものがある。
- ③ 「積小為大」

【Bグループ】

- ① どんな時でも一歩を忘れない

- ② 一番を目指すのではなく一流を目指す。

- ③ 小さなことも蔑ろにしない「積小為大」

【Cグループ】

- ① 生きてるだけであるもうけ

- ② 「積小為大」

- ③ 「田からもの」汗をかき協力してしか得られないもの

【Dグループ】

- ① 怒りのなんど、観察のなんで。

- ② 掃除の大切さ=時間・買う・効率の無駄。

- ③ 川と水車=川の中に入つてよく見て、知らないといけない。

【Eグループ】

- ① 「積小為大」

- ② 小さな一步を踏み出す

- ③ 「田からもの」そういうイミの気づき

【Fグループ】

- ① 尊徳の足=足を忘れず出していくことが大事。

- ② 小さな一点見過ぎさずに認める。

- ③ 生きてるだけであるもうけ。

春季宿泊研修 京都・仁和寺「御室会館」
参加者 塾生37名・星稜女子短期大学部31名



金堂(仁和寺)

仁和寺の中心堂宇。本尊は阿弥陀三尊の紫宸殿の遺構であります。現存する最古の伝える桃山時代風の意匠を有する廷閣式建築の代表作として、重要文化財に指定されています。

金剛華菩薩(仁和寺)
靈宝館の南側、杉並の中に祀られているこの仏像は、仁和寺に伝わる御室流華道の理念の象徴として1981(昭和56)年に造立。金剛界曼荼羅の金剛華菩薩。



「沖縄から日本の未来が見える」 我那覇真子先生

私は沖縄でいろんな活動をしています。その為には人間力を付けなければいけないと思っています。昨日中桐先生の話は聴けませんでしたが、寺田先生のDVDを見て腰骨を立てないといけないと考えさせられました。

本日は、沖縄から日本の未来が見えると題して話をさせて見られていたら驚く事ばかりと思います。新聞報道とは異なる現実ばかりだからです。

私がやっている事は、危ない人達と対峙しての活動です。ネットでも書かれていますが、平和に見える沖縄県に大きな脅威が迫っています。地元大紙やそれに迎合しない国民に対し、また、偏向報道を続ける地元大紙やそれに合わせて、先棒を担ぐ人達の現実に対し、私は日本の為に何が出来るのかという気持ちで戦っています。

私は小さい頃から父の影響を受けています。学校で話されている日本の歴史など、先の大戦等について、先生達が子供達をいかに自分の思想に染め上げるかという洗脳教育に対し、自分の娘がそういう風に染まつていかないように、本当の歴史を教えてくれました。日本人として生まれて何からこうやって活動する事になつたのです。

■ 現実とイメージの著しいギャップ

私の家から見る沖縄の海はこの写真のように美しくのどかですが、実は沖縄はこの写真で見るのは180度違います。マスコミが隠して報道しない眞実を見たら、沖縄はただの平和の島とは思えないでしょう。

本土に住む人の多くは沖縄について、「沖縄の人達は米軍の基地があることで、過重な負担を強いられている。沖縄の人達が基地反対を唱えるのはもつもなことだ」と思つてゐるのではないか。新聞やテレビなどのメディアで報じられている沖縄の情報は、現実と大きくかけ離れています。事実、私はメディアや反対集会などで、「活動」

している人以外の人が基地反対を唱えているのを聞いたことがありません。毎日、辺野古で座り込みなどの反対運動をしている人達の多くは、元々沖縄に住んでいる人達ではありません。

反対運動の人達は、不法駐車をして民家の人口を塞いだり、ゴミをまき散らしたり、本当にここが日本なのか、法治国家なのかと思うほど、狼藉三昧なのです。近隣の人が抗議しようものなら、「おまえたちは反対運動を邪魔するのか」と息巻くあります。怖くなつて何も言えない住民も多いのです。彼らの多くは共産党系か労組系の人達で、日本人でない韓国や北朝鮮の人達もいます。金政権を礼賛するチエイエ思想の本部も沖縄にあります。偏向報道により、国民の多くが勘違いするのもやむを得ません。沖縄の姿がかなり歪曲されて報道され、それが政治利用されているとも言えます。

■ 「煽動」メディアがつくった「勘違い」

嘘、捏造、偏向報道によって、沖縄に関する勘違いが世間に定着してしまいました。

多くの人は、辺野古に新しく基地を造ると思い込んでいるようですが、誤解です。辺野古には「キャンプ・シュワブ」という米海兵隊の基地があり、その一角を埋め立て、普天間飛行場の移設をしようという計画であり、新基地を造るわけではありません。キャンプ・シュワブは地元辺野古地区の要請で誘致された基地であり、地元住民の多くが基地移設容認です。住民の意思を無視して新たに基地を造るというのは新聞が作りあげた嘘の構図です。

沖縄にだけ基地が集中しているというのも間違いです。戦略的、地政学的に沖縄の重要性は、動かしがたい事実です。しかも、沖縄にある米軍基地からの大きな恩恵を受けています。経済的に疲弊している現在、むやみに「基地反対」を叫ぶ事は、現実を直視しない愚行と言つて良いでしよう。むしろ私は、沖縄という地政学的に重要な場所に基地がある事によつて日本の安全保障が維持できている事を沖縄県民はもつと誇りに思うべきだと考えていています。

■ 沖縄は、どうあるべきか

自分が生まれ育つた沖縄にとつて、どういう方向へ進む事がいいのかと考える事があります。

どうして反対運動を利用されてしまつたのか、散華された方々について、今の我々日本国民はどう向き合つていくのか。それが安全保障に対する今の日本を守る事に意識的に繋がつて行くものだと私は考えています。沖縄を守る戦い。日本を守る沖縄の戦い。という立場で私は保守活動をやつて行きたいと思つております。

是非皆様も共に、この日本を守る戦いに参戦していただければ幸いです。

どうか、沖縄のゆがめられた報道に惑わされる事なく、本当の沖縄の姿を見てください。そして、反基地・反日活動がいかに組織的で、自分達の権益を確保するための運動に堕しているかを理解してください。

大きな流れで見れば、今は左翼勢力の最後の悪あがきと言つていいでしよう。これから、必ず崩壊が始まります。今はその過渡期であり、転換期にあります。日本の夜明け

悪かつたとなつています。これでは残された我々沖縄県民が誇りを持てるのでしょうか。

先の大戦は侵略ではなく自衛の戦いであったことは東京裁判のパール判事も証言しています。アジア諸国でも日本に感謝している国が沢山あります。他国に日本はこんな悪い国だと教えてもらうような状況に今なつてゐるわけです。戦勝国の論理で敗者を裁き贖罪意識を植え付けました。沖縄では反戦平和運動に利用されやすい状況にあるわけです。戦後に歴史はゆがめられたけれども、日本の為に沖縄の為に戦つた、その方々の名誉を回復するのが我々の仕事・使命ではないか、それが敬恩ではないかと思ひます。私は一

《グループ討議》

□ 講師 我那覇真子子先生

「沖縄から日本の未来が見える」

【Aグループ】

- ① マスコミによって、部分だけ切り取って報道される。知らないことは恐ろしい。
- ② パール判事は正しく判断してくれた。
- ③ 自分たちを守ってくれる人をバックアップすべき。

【Bグループ】

- ① マスコミの報道が意図的に曲げられている。
- ② 沖縄戦など大戦をもつと知るべき。
- ③ 日本のことを外国人に知らせてもらうには問題がある。

【Cグループ】

- ① マスコミが正しい情報、本当のことを伝えていない。
- ② 反対運動をされている方の手段が暴力的。
- ③ 日本のために戦ってくれた人々が居たから今がある。

【Dグループ】

- ① 「おかしいこと」はおかしいと言うことが大切である。
- ② 日本に誇りをもつこと。
- ③ 日本を守ってくれた人々に恩を感じる。

【Eグループ】

- ① 日本人が自国のことを持てあがめている。
- ② マスコミが情報を操作している。
- ③ 反対派の人々の多くが県外の人。或いは外国人。

【Fグループ】

- ① メディアで解らないことは、現実に目を向けるべき。
- ② 真実が伝わっていない。
- ③ 先人で亡くなつた方への恩返しをしないといけない。



第一講 中桐万里子先生講話





愉しい夕食

仁和寺 梓



夜の部（読書会）

テキスト「たねまき文庫」各種



賑やかに愉しく交流会

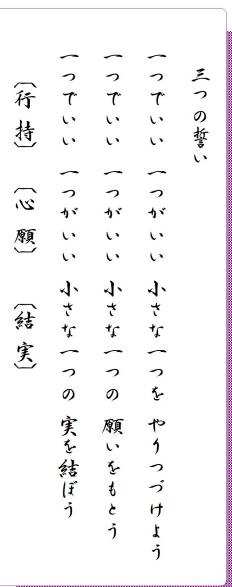




国宝「金堂」にて朝のお勤めに参加



第二講 我那霸真子先生講話

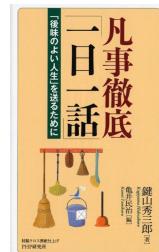


『お薦め書籍』

『凡事徹底「一日一語」』

鍵山秀三郎 著

本日販売中!!



出版 PHP出版
価格 一二六六円(税込)
ISBN-13 978-4599840451

《人間学塾・中之島》

■ 5月カリキュラム

* 日時 令和元年5月11日(第一土曜日)

* 場所 大阪大学中之島センター 10F

大阪市北区中之島四丁目五三

* 講師 石川真理子先生

「武士道とは愛することと見つけたり」

鍵山秀三郎先生最新刊(4月10日出荷)
戦時中、疎開先でたいへんな苦労を経験し、その後裸一貫から一部上場企業(株式会社イエロー・ハット)を育て上げた著者の座右の名は「凡事徹底」。意味は、誰にでもできる平凡なことを、誰にでもできないくらい徹底すること。著者にとって、その生き方を支えたのが「掃除」であった。いまから50年以上前、たった一人で始めた掃除が、やがて「日本を美しくする会」に発展し、その輪は国内のみならず海外にも広がっている。掃除によつて社会の荒みをなくそうという行動こそ「凡事徹底」の実践であり、人間にとつていぢばん大切なものが身につく方法ともいえましょう。

東京都出身。武家の家系に生まれ、祖母から武家に伝わる薰陶を受ける。文化女子大(現・文化学園大学)卒業後、大手出版社に勤務。独立後は文筆活動の他、武士道や武家の生活文化を独自に学び、忘れられた「婦道」啓蒙活動を行う。主な著書『女子の武士道』『女子の教養』『勝海舟修養訓』(致知出版社)『仕事で生かす武士道』(内外出版社)他多数。

《郊外学習案内》

楠木正成公ゆかりの地



湊川神社を訪ねて

◆ ◆ ◆ 日時 6月22日(土曜日)【予定】

神戸市中央区多聞通3-1-1

◆ ◆ ◆ 集合 午後13時 社務所・「參集殿」まえ
日程 ・社殿・正式参拝

・境内見学

殉節地(史跡・楠木正成殉職地)

御墓所(史跡・楠木正成墓碑)

徳川光圀銅像

親を軽視するものは、実は己自身をさげすむわけであり、己が運命を呪うものといえましよう。それゆえまた親を敬愛するものは、自分自身を敬愛することになり、自己の運命の繁栄律に繋がることを改めて知らねばならぬと思うのであります。

森信三

「運命を創る100の金言」より

・講演 宮司さん講話
「大楠公と湊川神社」

解散16時頃

日本のヘレン・ケラー

大石順教尼を訪ねて(京都・山科)

